第２回生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会　議事要旨

日時　：平成２３年５月２６日（木）１３：００～１５：００

場所　：アクロス福岡　６０８会議室

出席委員：

浅野委員　　福岡大学法学部　※委員長

小野委員　　日本野鳥の会福岡

川口委員　　九州大学大学院農学研究院自然生物科学部門

今田委員　　福岡大学大学院工学部工学研究科　※委員長代理

佐々木委員　財団法人福岡アジア都市研究所

志賀委員　　特定非営利活動法人グリーンシティ福岡

薛　委員　　九州大学大学院農学研究院環境農学部門

服部委員　　ＮＰＯ法人ふくおか湿地保全研究会

森　委員　　国立水俣病総合研究センター疫学研究部調査室

横山委員　　九州産業大学商学部観光産業学科

和栗委員　　福岡女子大学国際文理学部

※敬称略

議事：

１．福岡市の生物多様性の現状と課題について

２．生物多様性ふくおか戦略（仮称）の理念・目標・方向性の検討について

３．市民アンケート、事業者アンケートについて

４．生物多様性ふくおか戦略（仮称）の関連計画について

５．第１回生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会の議事録について

配布資料：

資料１－１　　福岡市の生物多様性の現状及び課題

資料１－２　　第１回検討委員会の委員意見対応一覧

資料２　　理念・目標・方向性の検討

資料３－１　　市民アンケート調査（案）

資料３－２　　事業者アンケート調査（案）

資料４　　生物多様性ふくおか戦略（仮称）関連計画一覧

資料５　　第１回生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会議事録

参考資料１　生物多様性ふくおか戦略（仮称）検討委員会設置要綱

参考資料２　生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会 委員名簿

参考資料３　海洋生物多様性保全戦略

1. 福岡市の生物多様性の現状と課題について

※事務局より、福岡市の生物多様性の現状及び課題（資料 1-1）、第 1 回検討委員会の委員意見対応一覧（資料 1-2）に基づき説明があった。

（浅野委員長）

・資料 1-1 の 118 頁「環境影響評価制度の充実」については修正が必要である。「環境影響評価法の一部を改正する法律案」が平成 22 年 3 月に閣議決定されたが、平成 23 年 4 月に公布され、2 年後に施行される予定である。

・資料 1-1 の 122 頁「地球温暖化」について、平成 23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災によって、日本国内だけでなく世界的な規模で、エネルギー需給構造を再検討し始めている。どのような書きぶりにするかは難しいが、このことも追記すべきである。

（今田委員）

・戦略づくりにおいて、課題を整理することが重要になる。資料 1-1 の第 3 章に、生態系からの恩恵を直接受けている農林業従事者が福岡市の自然環境、生態系に対して、どのような思いを持っているのかであるとか、自然観察のように自然環境のある特定の種について非常に関心の高い人は、生態系の変化を敏感に察知していると思うため、そのような方の意見を整理し、追記するとよいと思う。

・今回の資料の課題をどのように抽出したのかうかがいたい。

（事務局）

・今回の資料で提示している課題は、事務局で収集した既存文献を整理し、資料 1-1 で示した現状から、変化の方向を要因分析し、抽出したものである。ご指摘にあった環境活動を行っている市民団体や農林業従事者の意見については、NPO 団体に対して既にアンケートを実施しているほか、市民や事業者に対してのアンケートも予定している。今後、それらの結果を整理し、市民の声として盛り込みたいと考えている。

（今田委員）

・今回の資料の課題は、行政から挙げられた課題であると認識している。その他の様々な立場の人から挙げられる課題も重要であると思う。

（浅野委員長）

・資料 1-1 の現況について、里地里山の消失が大きく書かれているが、実際の生活感覚としては、空き地やスズメを見かけなくなってきていることなど、市街地の生物の生育・生息空間が減少していることが挙げられる。そのような観点が抜けていると思う。

（事務局）

・ご指摘の通り、身近な自然環境や生態系の視点を書き込みきれていない部分があった。既存データを探索し、そのような内容を盛り込みたい。

（浅野委員長）

・例えば、若久団地の環境アセスメント案件では、団地ができた頃のデータを調査しているはずである。そのようなデータを活用することで、市街地の面開発の歴史の中で、どういう動きがあったか分かるのではないか。その変化の中で、現在残っているものをどう保全するか、可能な限りどう創出するかが戦略になっていく。そもそも里地里山にこだわりすぎているように思う。

（小野委員）

・資料 1-1 の 56 頁「地球温暖化」について、福岡市の気温変化は、100 年間の平均気温 3.0℃ではなく 3.2℃の上昇で、最低気温は 4.3℃ではなく 5.3℃の上昇が最新データであり、福岡市の気温がさらに上昇しているのがわかる。この傾向は、街の中の緑の減少や開発の進行の影響の現れであると考えられる。

・例えば福岡市役所西側の緑地にヤブサメが飛来しているのを確認した。このように、身近な緑があると春や秋の渡りの時期に野鳥が集まってくる。これは福岡の特徴であると思う。

（横山委員）

・近年の状況として自然が減少しているだけでなく、自然の構造が変化している。用排水路の分離やコンクリート化、森林が残っていても管理放棄されたスギ林や増加する竹林など自然の構造が変化しているともいえる。このように面積だけでなく質が変化していることも考慮しなければいけないと思う。

（小野委員）

・生物多様性を次世代に継承するには、守るべき自然を守り、再生すべき自然を再生し、自然がなければ創出し、維持管理していくという考え方を持っていたほうがよいと思う。

（事務局）

・多様性が減少したことの要因として、例えば市街地面積の変化までは把握しているが、そこがどのように変化したのかまでは把握できていない。第 3 回の委員会までには整理したいと考える。

（佐々木委員）

・自然環境に対しての企業の責任は、大きい意味でも小さい意味でもあると思う。例えば、会社・工場敷地や市街地の緑化に企業のお金を利用するなど、福岡市における企業の責任は大きいと考える。

（浅野委員長）

・生物多様性について役割を果たす必要があることを意識している企業もあるが、何をすればよいのかわからない企業が多い現状のようである。何をすればいいのかを示せば、企業が動く可能性はある。

（和栗委員）

・資料 1-1 の 113 頁「教育的価値」の変化の状況・要因において、自然体験学習について述べられており、それらは一般的に小中高生向けの自然を楽しむものが多いと思う。それだけでなく、対象を大学生まで広げ、市民生活の活動から企業活動、農林業などの生産活動までもが生物多様性に関係しているという内容の教育も考慮されるとよいと思う。

（浅野委員長）

・田畑などの身近な自然が減少しているのはもちろんであるが、そのような自然が活用されなくなっていることが課題である。自然の減少ばかりを述べると少々悲観的になってしまう。自然が活用されている事例が市内にはたくさんあると思う。

・資料 1-1 の現状と課題については、戦略づくりを進めながら、フィードバックし、修正を加えていく必要がある。

２．生物多様性ふくおか戦略（仮称）の理念・目標・方向性の検討について

※事務局より、理念・目標・方向性の検討（資料 2）に基づき説明があった。

（今田委員）

・第一印象は、目標などは当たり前のことが述べてあり、迫力に欠ける印象である。前回の委員会では、戦略策定のねらいを「福岡市の活力の維持、向上に資するための長期的な成長戦略」としており、野心的な戦略であると感じた。「福岡市の活力」が何であり、何に由来するのかを示し、福岡市の自然環境や生態系、生物が、「活力」にどのような影響を与えているのかをＳＷＯＴ分析したほうがよいと思う。現状の整理についても、取り巻く自然に限定せずに「福岡市の活力」に関連した現状を整理してはいかがか。

（志賀委員）

・ＳＷＯＴ分析については、面白い分析であり、今後も進めていくとよいと思う。ただし、内部環境と外部環境の定義づけをはっきりしたほうがよいと思う。説明では、福岡市を内部、市外を外部としているが、実際は自然を内部、人間活動を外部としているように受け取れてしまう部分がある。内部環境は市内のみ、外部環境は市外のみと切り分けを明確にしたほうがよいと思う。

（事務局）

・内部環境と外部環境は市内と市外で、ゾーンで切り分けて検討している。

（志賀委員）

・今回の資料では、内部環境の項目が「生態系の多様性」や「種の多様性・危うさ」などの生き物についてのことのみ記載されているので、例えば、「福岡市民の意識の高まり」や「福岡市内に整備された施設」、「福岡市内の開発」などの項目を盛り込んではいかがか。

（佐々木委員）

・目標を示すのであれば、福岡市の開発計画や人口動態などを含めた 2050 年までの時間的なスケジュール、年表のようなものが必要であると思う。

（浅野委員長）

・ＳＷＯＴ分析の中で、例えば「生態系の著しい減少」という書きぶりは、内容は理解できるが表現として適切ではないと思う。

・「エネルギー供給構造の変化による人と自然との関わりの希薄化」は、里山の薪炭林としての利用のことを述べていると思うが、そのような利用形態は、福岡市とその周辺には該当する場所が稀ではないかと考える。エネルギーが大量供給にシフトし、大規模な発電施設開発が行われていることは、エネルギー供給構造の問題であるといった認識のほうが大事ではないのか。

（志賀委員）

・里山の利用は、市街地ではなかったかもしれないが、外縁部の一部の地域で実際に行われていたことだと認識している。また、生物多様性国家戦略の中でも、3 つの課題のうちの 1 つとして、里山の管理不足による自然環境の変質が記載されている。そのため、表現をわかりやすくする必要はあるかもしれないが、課題の一つとして、挙げておく必要があると思う。

（横山委員）

・明治期の地形図によると、脊振山の福岡市側には萱場のような草地があったことが示されている。

・外部環境の脅威として、人口減少を挙げているが、福岡市の人口動態は、今後も増加を続けるのではないか。また、これが福岡市にとっての「脅威」となりうるのか疑問である。

（浅野委員長）

・福岡市の人口動態は 2025 年をピークに減少に転ずると予想されている。また、都心の人口は高齢者のマンションへの移住などにより増加し続け、反面戸建ての多い郊外部の人口が減少してしまうことで、郊外部の空間は広がることが予想される。

（小野委員）

・ＳＷＯＴ分析のような分析や議論を行う際、量と質の考え方が混同してしまうことがあるため、留意して議論したほうがよいと思う。

（薛委員）

・内部や外部の環境をまとめる際に、森林や水田の面積の減少だけでなく、質的な変化も考慮して記載するべきである。

・この戦略の精度や全体構造、望ましい戦略の内容が示され、どの部分について検討しているのかがわかると議論しやすい。次回の委員会では、全体の目次構成と戦略でどの程度のレベルまで書き込むかを示していただけるとよいと思う。

（浅野委員長）

・この戦略の鳥瞰図的な役割を果たす全体構想を示すことはもちろんであるが、福岡市の多様な地域特性から導き出される方向性をどのように示すかを検討する必要があると思う。

・この目標「将来にわたって継続的に生物多様性の恵みを享受できるまち」は、生物多様性の恩恵を受け取るだけの消費者的な立場で書かれている印象を受ける。

（薛委員）

・この戦略のまとめる内容と精度を整理し、市民に対して、どのようなことを訴えるかを明確にする必要があると思う。

（佐々木委員）

・この戦略は、市民が誇りを持って住み続けたくなる都市のキーワードとして重要になってくると思う。地元住民や企業が生き物を見守り、育てていくことに誇りを持てるような戦略にしてほしい。

（浅野委員長）

・この戦略の中で、第１ステップとして市民に持っていただきたい認識は方向性や目標の中で示されているが、第２ステップとして何をやっていくのかの内容が示されていない。

（服部委員）

・この戦略において、50 年後、100 年後のビジョンをはっきりと示してはいかがか。

・例えば、現状では漁業について示されているが、ＳＷＯＴ分析では記載されていないように、現状とＳＷＯＴ分析がつながっていないように受け取れる。

（森委員）

・ＳＷＯＴ分析の方法がわかりづらい。挙げられている各項目には二面性があるため、一概にプラスとマイナスに分類するのは難しい。例えば、熊本県に面する海では、一時期、有志によってマングローブが植栽されたが、在来の生態系を乱す恐れがあるため、現在はマングローブがこれ以上広がらないようにしなければならなくなってしまった。戦略の方向性を立てる際は、的確な情報発信と環境教育を柱の一つに置いてほしい。

（川口委員）

・理念・目標・方向性（資料 2）と現状と課題（資料 1-1）とのつながりがわかりにくい。また、より具体的な理念・目標・方向性のイメージを示していただきたい。

（浅野委員長）

・どのような戦略にするかのイメージを検討し、固めることで、おのずと理念・目標・方向性も見えてくると思う。次回の委員会では、資料 2 を修正して示すことにこだわらず、資料 1-1 の現状から直接、理念・目標・方向性を導き出すほうが早いかもしれない。

（事務局）

・ご指摘をふまえ、理念・目標・方向性を再整理して示したい。

（浅野委員長）

・2050 年後の福岡市を想定すると、人口の一極集中は変わらず、大陸との交流はより活発化し、開発がこれ以上広がることはないと思う。そのため、現在ある自然はそのまま残ると思う。そのイメージを持って、戦略策定を進めていただきたい。

（小野委員）

・長期的な将来の夢やビジョンを描き、その実現に向けて、現在の現実的な取り組みを検討してもよいと思う。

（和栗委員）

・福岡に住んでいる学生の印象は、受身な消費者タイプであると認識する。研究機関としての大学の役割だけでなく、大学生に対して福岡市を盛り立てようという意識づけを図るための教育体制を検討していただけるとよいと思う。

３．市民アンケート、事業者アンケートについて

※事務局より、市民アンケート調査（案）（資料 3-1）、事業者アンケート調査（案）（資料 3-2）に基づき説明があった。

（志賀委員）

・一般市民と市政モニターに意識の違いはあるのか。

（浅野委員長）

・今回のテーマ「生物多様性」では、市民の一般的な意識を把握できると思う。

（今田委員）

・このアンケート調査の位置づけを教えていただきたい。また、戦略策定のためのアンケートであるのならば、例えば戦略に関することなど、戦略策定に役立つ設問を設けてはいかがか。

（事務局）

・今回のアンケート調査で、キークエスチョンとして考えているのは、設問Ｄ「市民の生物多様性に関する取り組み状況」と、設問Ｅ「福岡の生物多様性を保全していく方向性」である。その設問に向けて、前段として設問Ａ～Ｃを設けている。

（浅野委員）

・アンケート調査のテーマが「生物多様性」という、認知度がまだ低いテーマであるため、今回の調査をきっかけとして、市民にこの概念を広く知ってもらう機会になればよいと思う。

・市民アンケート（資料 3-1）の問 6、福岡の大切にしたい自然という設問の選択肢の中に、「ブナ林などの自然性の高い林」とあるが、福岡市域内には、ほとんどないと思うため、変更したほうがいいのではないか。

・事業者アンケート（資料 3-2）の問 10、12、生物多様性の保全及び利用に関する具体的な取り組みの選択肢として、「サンゴ礁の再生」とあるが、これも、福岡の地域特性に即した事業者がとりくめそうなものに変更したほうがよい。

（事務局）

・ご指摘の通り、選択肢を適切な内容に変更する。

（横山委員）

・企業の取り組み事例として、新日本製鐵株式会社では、宮脇昭氏の理論による工場敷地の緑化をおこなっている。

（今田委員）

・このようなアンケート調査でわかることは限られているため、自然保護団体数や事業者のＣＳＲ活動数を他市と比較するなど、取組みを定量的に把握し、客観的な指標としてはいかがか。

（事務局）

・昨年度は、福岡市内の 36 のＮＰＯ団体を対象としたアンケートを実施している。今年度は必要に応じて、その中から数団体を選定し、ヒアリングを行う予定である。また、事業者アンケート調査結果を基に、面白い取り組みがある場合は、事業者に対してヒアリングを行うことも検討する。

（浅野委員長）

・環境報告書を公表しているのは、ＪＲ九州、九州電力、西鉄、西部ガス、ＡＥＯＮ、コカコーラ、大学では九州大学などがある。

（志賀委員）

・企業の取り組み事例としては、竹林の竹材チップ化、社員のボランティア派遣、フェアトレードの商品流通などが挙げられる。このような取り組みも事業者アンケート（資料 3-2）の問 10、12、生物多様性の保全及び利用に関する具体的な取り組みの選択肢に加え、選択肢の幅を広げてはいかがかと思う。

４．生物多様性ふくおか戦略（仮称）の関連計画について

※事務局より、生物多様性ふくおか戦略（仮称）関連計画一覧（資料 4）に基づき説明があった。

（薛委員）

・この関連計画を戦略にどのように関連付けるのかうかがいたい。

（事務局）

・個別の施策を、生物多様性に直接関係するものと間接的に関係するものに分類している。直接関係するものについては、戦略の施策体系として取り入れ、間接的に関係するものは、その計画を改定する際に生物多様性に配慮した内容を加えていただくようにお願いする予定である。

（今田委員）

・県や国の関連計画や観光分野、アジア圏などの広域的な動きの把握や連携も必要ではないのか。また、観光分野の関連計画はないのか。

（事務局）

・観光に関する計画は策定されておらず、観光課という部署もないものの、集客企画課という部署が戦略策定検討の課長級会議に参加している。

・福岡市の関係している広域連携については、既に一部把握しているが、今後も把握を進める。

（佐々木委員）

・関連計画を把握していく中で、今後 2～3 年の各計画の方向性がわかるとよいと思う。現在見直しを進めている計画については、見直した後の内容が反映されているとよりよいと思う。

（事務局）

・来年度以降改定・策定される計画だけでなく、今年度改定する計画についても、まだ戦略策定されないものの、戦略の考え方に配慮していただく予定である。

５．生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会の議事録について

※事務局より、第 1 回生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会議事録に基づき説明があった。

（事務局）

・議事録を確認していただき、承認していただければ、公表する予定である。

（浅野委員長）

・原案は発言録ではないので公開した際に読む人に誤解を与えないために「議事録」ではなく、「議事要旨」に変更したほうがよくはないか。

・第 1 回の議事要旨は 5 月 31 日までに各委員に確認していただき、6 月 1 日に確定する。

・その他に気づいた点についても、事務局までメール等の連絡をしていただく。

（事務局）

・ご指摘の通りに対応する。

・第 2 回の議事要旨についても、作成次第、メールにてご確認いただく。

・第 3 回の検討委員会は 7 月 21 日（木）15 時からを予定している。場所等の詳細が確定次第、改めて連絡させていただく。

以上